学校番号	309

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説世界史　世界史探究」　（山川出版）						
副教材等	「グローバルワイド　最新世界史図表」　（第一学習社） 「詳説世界史 10 分間テスト」（山川出版社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

2 年で学んだ世界史探究の継続授業です。近世以降を学びます。2 年生の時以上に、予習・授業・復習のサイクルを大切に取り組んでください。そして、次々に登場する国名・地名を地図で確認することを大切にしてください。また、どの時代のどの地域を学んでいるのかを、常に意識することを大切にしましょう。

2　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会に有益な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。具体的には、世界史的課題や国際社会の現状に対応するための基礎的知識の習得、それらに対応するうえで求められる思考力や判断の育成をめざし、それらの学びを授業でのみ受動的に行うのではなく、適切な ICT の活用によって主体的に自ら判断して学びに向かっていける力を育む。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に着けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
Ⅰ学期	東アジア世界の展開とモンゴル帝国	1　アジア諸地域の自立化と宋 2　モンゴルの大帝国	a: 10～12 世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。 モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。 b: 「清明上河図」などの図像資料や荘綽『鶏肋編』などの資料をもとに、宋代の経済発展が社会に引きおこした変化を多面的・多角的に考察し表現している。 モンゴル帝国の最大領域を示す地図や「混一疆理歴代国都之図」などの図像資料をもとに、モンゴル帝国の成立世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 10～12 世紀の東アジアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	小テスト ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	グループワーク ワークシート 小テスト 提出物

	大交易・大交流の時代	1　アジア交易世界の興隆	a:「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。 b:「南蛮屏風」などの図像資料や鄭暁『今言』などの資料をもとに、この時期のアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察し表現している。 c:アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	小テスト ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	グループワーク ワークシート 小テスト 提出物
		2　ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	a:ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。 b:ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラス＝カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』などの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c:ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			

	アジアの諸帝国の繁栄	1　オスマン帝国と サファヴィー朝 2　ムガル帝国の興隆 3　清代の中国と 隣接諸地域	a: オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。 ムガル帝国において非イスラーム教徒に対する施策がどのように変化したのかを理解している。 清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。 b: オスマン帝国とサファヴィー朝を比較したうえで、それぞれの特徴や両者の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 ムガル帝国時代の細密画などの図像資料や領域を示す地図などをもとに、ムガル帝国の興隆と衰退が南アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 皇帝を描いた図像資料や『康熙帝伝』などの資料をもとに、清代の皇帝と従来の中国王朝の皇帝との違いを多面的・多角的に考察し表現している。 c: オスマン帝国とサファヴィー朝について、自分が抱いた興味・関心や疑問, 追究してみたいことなどを見いだして, 見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ムガル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 清代の中国と隣接諸地域について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	小テスト ワーク シート 定期考査	ワーク シート 定期考査	グループ ワーク ワーク シート 小テスト 提出物

2学期	近世ヨーロッパ世界の動向	1　ルネサンス 2　宗教改革 3　主権国家体制の成立 4　オランダ・イギリス・フランスの台頭 5　北欧・東欧の動向 6　科学革命と啓蒙思想	a: ルネサンスの特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。 新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。 主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。 オランダ・イギリス・フランスがそれぞれ持った有利な点や課題を理解している。 北欧・東欧の各国の関係の推移や、それぞれにおける改革の内容を理解している。 科学革命と呼ばれる一連の変化がどのような背景で起こったのかを理解している。 b: 美術作品の図像などの資料をもとに、ルネサンスの新しさと古さを多面的・多角的に考察し表現している。 「九十五カ条の論題」や『キリスト者の自由』などの資料をもとに、宗教改革の動きが広まった要因を多面的・多角的に考察し表現している。 ウェストファリア条約の内容や当時の戦争の様子を示す図像資料をもとに、主権国家体制の成立と戦争の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 覇権争いの経過や「権利の章典」などの資料をもとに、イギリスが覇権を握るに至った要因を多面的・多角的に考察し表現している。 ロシア・プロイセン・オーストリアの状況を比較したうえで、啓蒙専制主義による改革が各国におよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現している。ルネサンスとの比較をふまえて、科学革命が社会に与えた影響を多面的・多角	小テスト ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	グループワーク ワークシート 小テスト 提出物

			的に考察し表現している。 見通しを持って学習に取り組もうとしている。			
2学期			c：ルネサンスについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 宗教改革について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 主権国家体制の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 オランダ・イギリス・フランスの覇権争いについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 北欧・東欧の動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、科学革命と啓蒙思想について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			

	産業革命と環大西洋革命	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立	a: 産業革命が 18 世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。 アメリカ合衆国がどのような歴史的経緯をたどって独立したのかを理解している。 フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解している。 中南米諸国の独立がどのような経緯をたどって実現したのかを理解している。 b: 当時の工場の様子を描いた図像資料や都市の人口を示す統計をもとに、産業革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 アメリカ独立宣言や「権利の章典」（第 11 章４節）などの資料をもとに、アメリカ合衆国独立の独自性を多面的・多角的に考察し表現している。 「旧体制」の風刺画などの図像資料や人権宣言などの資料をもとに、フランス革命において「国民」を主役とする社会が創出されたことについて、多面的・多角的に考察し表現している。 中南米諸国の独立年を示す地図などをもとに、ヨーロッパ情勢をふまえたうえで、短期間に多くの独立が達成された要因を多面的・多角的に考察し表現している。 c: イギリス産業革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 アメリカ合衆国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	小テスト ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	グループワーク ワークシート 小テスト 提出物

			フランス革命とナポレオンについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 中南米諸国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			
	イギリスの優位と欧米諸国民国家の形成	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	a: 19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解している。 19世紀後半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、時代的な背景や各国の共通点・相違点もふまえて理解している。 南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造やその後の展開を理解している。 19世紀欧米文化の展開と近代諸科学の発展の経緯を理解している。 b: ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や会議を風刺した図像資料などをもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 鉄道距離の推移を示す統計やイタリアとドイツの統一を示す地図などをもとに、19世紀後半にヨーロッパの再編成が進んだ背景を多面的・多角的に考察し表現している。 アメリカ合衆国の領土拡大を示す地図や大陸横断鉄道開通の写真などの図像資料をもとに、アメリカ合衆国の急速な発展の要因を多面的・多角的に考察し表現している。	小テスト ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	グループワーク ワークシート 小テスト 提出物

			19 世紀欧米文化のさまざまな事例をもとに、この時期の文化と現代の文化とのつながりを多面的・多角的に考察し表現している。 c: ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 19 世紀後半のヨーロッパの再編成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 アメリカ合衆国の発展について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 19 世紀欧米の文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			
	アジア諸地域の動揺	1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの動揺	a: オスマン帝国・イラン・アフガニスタンにおける動揺や改革の推移を、ヨーロッパ列強との関係ともあわせて理解している。 ヨーロッパ各国による南アジアと東南アジアの植民地化の経緯を理解している。 欧米諸国の進出の経緯と東アジア諸国の改革の試みの成果や課題を理解している。 b: マムルークの一掃を表した図像資料やオスマン帝国憲法などの資料をもとに、この時期のアジア各地での変化や改革について多面的・多角的に考察し表現している。 東南アジアの植民地化の地図やゴムのプランテーションを示した図像資料をもとに、ヨーロッパ各国の進出の経緯をふまえ、南ア			

			ジアと東南アジアにおける植民地化と世界経済の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 文字資料「マカートニーの 1794 年 1 月の日記」やアヘン戦争を描いた図像資料、東アジアの開港場を示した地図などをもとに、この時期の東アジア国際秩序の変容について多面的・多角的に考察し表現している。 c: 西アジアの変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 南アジア・東南アジアの植民地化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 東アジアの激動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			
3学期	まとめ	地球世界の課題の研究	a:設定した課題の追究や解決のために、適切かつ効果的に諸資料を活用し、歴史的経緯をふまえて、地球世界の課題を理解している。 b:諸資料を読み解き、世界の歴史について多面的・多角的に、考察、構想し、表現している。 c:よりよい社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。	提出課題 発表状況	提出課題 発表状況	提出課題 発表状況

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度